

## 環境保全コスト

分類	主な取組み	環境保全コスト (単位:千円)	
		投資額	費用額
事業エリア内コスト		103,440	178,949
公害防止コスト	排水処理、浄化槽管理、粉体塗装など VOCの低減等のための設備保全	330	74,098
地球環境保全コスト	自然エネルギーの活用、工場におけるエネルギー効率改善、コージェネシステムの維持、空調の改修、カーボンオフセットプロダクト販売諸経費、ソリューション提案に係わる諸経費	97,894	71,125
資源循環コスト	一般廃棄物と産業廃棄物の減量化、リサイクル、生産効率の向上	5,215	33,726
上・下流コスト	梱包資材減容機、グループ会社環境ISO活動指導	800	106
管理活動コスト	環境ISOの維持管理活動、環境ラベルの取得、展示会出展などによる情報開示、環境パフォーマンス等の監視、事業所内の緑化	35,138	222,881
研究開発活動コスト	環境負荷の低減に貢献する製品の設計・開発、新素材の研究・開発	4,103	24,554
社会活動コスト	ユニバーサルデザイン、環境関連団体への参画、社会貢献活動の実施	0	194
環境損傷対応コスト	—	0	0
	合計	143,482	426,687

## 主な取組みと成果 / 2013年度環境会計報告

より効率の高い環境保全活動を進めていくための指標として、環境活動にかかる投資額、費用額とその効果を集計しています。

- 2013年の投資額は143,482千円で、2012年より増加しています。主な投資は、滋賀ロジスティックセンターの太陽光発電装置、関西工場(寝屋川)の照明リニューアル等CO<sub>2</sub>排出量削減に大きく寄与する環境関連設備の更改です。
- 2013年の費用は426,687千円で、2012年より増えています。大きな要因として、PCB処分およびソリューション提案に係わる諸経費、環境負荷の低減に貢献する製品の設計、開発費用の増加が挙げられます。
- 環境保全効果は、2012年に導入した関西工場(寝屋川)都市ガス化により、CO<sub>2</sub>排出量が前年比4.6%減少しました。
- 廃棄物については、関西工場(滋賀)の排水処理汚泥の削減(キャビネット)等により総量で前年比13.8%減少しました。
- その他、水質汚濁防止など各種法・条項順守のための測定や、廃棄物の適正処理、環境マネジメントシステムの維持・改善などの活動を継続して行っています。

## 環境保全効果(前年比)

項目	環境保全効果		
	2012年度実績	2013年度実績	前年比
PRTR報告対象物質 取扱量	41t	46t	5t
NO <sub>x</sub> 排出量	6,813kg	10,791kg	3,978kg
SO <sub>x</sub> 排出量	1kg	1kg	0kg
CO <sub>2</sub> 排出量	20,786t-CO <sub>2</sub>	19,732t-CO <sub>2</sub>	-1,054t-CO <sub>2</sub>
廃棄物総排出量	6,331t	5,460t	-871t
廃棄物焼却・埋立処分量	65t	48t	-16t
産業廃棄物リサイクル率	99%	99%	0ポイント
事業系一般廃棄物リサイクル率	98%	99%	1ポイント
エコマーク登録商品数	16シリーズ	16シリーズ	0シリーズ

集計期間 2013年1月1日～12月31日

集計範囲 株式会社イトーキ

参考にしたガイドライン 環境省「環境会計ガイドライン 2005年版」

集計の考え方 環境活動以外の内容を含んでいる投資・費用は、環境活動に係わる割合を適切に按分して算出しています。

研究開発活動コストは、弊社「環境アセスメントガイドライン」の基準に則り、開発テーマごとに環境に係わる割合を適切に按分して算出しています。